隣同士で醤油が借りられる関係、何でも話せる関係がある自治会をつくりたい

東柏ケ谷五丁目自治会会長
柳下泰介さん（69歳）

「断ることはしないんです。何でもわりと真面目に受けてしまう」と話す柳下さんは5年間の副会長を経て、現在は会長3年目。「〝隣人から醤油を…〟なんて、今はそういうのは流行らないかもしれないけど。最終目的はやっぱりそこなんじゃないかな…」

海老名市誕生とほぼ同時期から住み始めて45年。自らが会長を務める自治会の活動と、柳下さんが思い描く地域の展望を聞きました。

あいさつができる町

ここはコミュニケーションがとれている地域だなと感じています。あいさつが積極的にできていて、お互いに声を掛け合っていて。私は80歳以上の人にモテるんですよ（笑）。この頃は覚えやすい顔だからか、気軽に声を掛けてきてくれるようになった。自分より高齢の方に声を掛けていただけることが、この地域の好きなところであり良いところですね。

みんなの声を第一に

みんなの提案で自治会運営をやっているから、とっても反応が良い。こういうふうにやりたいって形がすぐに返ってくるような、そんな自治会の形態に今はなっています。

地域で育む東柏ケ谷小学校のビオトープ

孫が通う小学校から池を作りたいという話があって、メンバーに声を掛けたらみんなが手伝ってくれました。長寿会からはポンプをもらったり、お手伝いもあって、地域の有志が一丸となって実現したものです。

「柏ふれあい釣り堀」からフナと金魚の卵を持ってきて、そこから始めました。今はヒキガエルが卵を産んで、カエルだらけになるまでになった。親は嫌がるけど、子どもは楽しんでる。大雨が降った時は、池の水があふれて外に出されてしまった魚にアリが集まっている光景が見られました。自然の循環とはこういうことなんだという報告書を学校の飼育係に出したりね。3カ月に1度は有志で水抜きをしています。自治会全体で育てている感覚です。

▲東柏小のビオトープには元気に泳ぐ金魚の姿が

40年続く4自治会合同の市民レクリエーション

東柏（とうはく）小学区の東柏ケ谷四～六丁目自治会とルアンジュさがみ野自治会の4自治会で毎年行う〝市民レク〟は、最初からずっと合同という形でやっています。参加者は800人くらいかなあ。盛り上がるのは市長杯を争う対抗戦。リレーとか綱引き、パン食いとか。

この時も地元企業の協賛で、パン食い競争のパンを提供していただきました。お昼は自治会ごとに取るのですが、地元企業提供のレトルトカレーを食べる自治会もあれば、トン汁を炊く自治会も。万が一の災害時の対応訓練も含めてやってるんですよ。どの自治会も工夫していろいろ考えています。

ことしは、うちの自治会が優勝したんですよ。

▲〝たま入れ〟や〝パン食い〟でみんな笑顔に

▲地元企業提供のレトルトカレーをふるまう自治会も

地元企業との連携

ことしからは新たな試みで、自治会報で地元企業の紹介を始めました。この地域に、新幹線とかエアバスの部品やシートを製造する企業があるなんて知らないでしょう。だから地域の皆さんに地元企業の仕事を知ってもらおうってことで。PRすることで、地元企業と住民のつながりにもなる。

地元企業とは良いお付き合いができていると思います。この前は、食堂を借りて「敬老の集い」を行いました。イベントの時に車を貸してもらうこともあるんですよ。

▲地元企業の食堂で行ったことしの「敬老の集い」

元気なまちづくりは横のつながり

地域には3人の民生委員さんがいるのですが、例えば、自治会に入っていない高齢の方に「敬老の集い」への参加を呼び掛けてもらって、それがきっかけで「じゃあ私も自治会に入ろうかな」っていうことが2件ばかりあった。雪が降ったある日には、玄関先の雪かきがされていないことを不審に思って訪ねたら家で倒れていた高齢者を発見した、なんてこともありました。たまたま民生委員さんの見守り対象者だったことが幸いした一例です。ほかに、〝市民レク〟のリーダー的な存在の〝青健連〟さんには、種目などを全部考えていただけるのでとても助かっています。また、何かある時は他の自治会に呼び掛ければ、顔見知りだからすぐに話がまとまる。人間関係ができているからね。

コミュニケーションと連携の大きな場として地区の「連絡協議会」というのもあるんですよ。4自治会・学校・PTA・長寿会など各分野全部の集まりが年に3回くらいあって学校で会議をします。ここは昔からこういうコミュニティーがあったんですよ。

こうしていろいろな団体や組織と連携して、初めて元気なまちづくりができると思うんです。

加入率低下の悩み

自治会としての悩みは、アパートに住む人たちの加入が少ないこと。昼は勤め、夜帰るライフスタイルの腰掛け的に住んでいる人が多いものですから。これがパーセントの引き下げになっています。お知らせなどはできるような形を取ってはいるのですが、やっぱり興味がないっていうのが一番なのかな。どこも一緒だとは思うけど、なかなか難しいところです。

オープンな自治会へ

この地域には絵手紙や野菜づくりなど、趣味でいろんなことをやっている人がたくさんいます。例えばそういう人たちのために会館をオープンマーケットにして、作った物などを売って、それが材料費の足しになるとか、励みの場所として提供できたらいいなと思います。長寿会にも何人か野菜を作っている人がいるから、「販売した方がいいんじゃない？」って。良い作品を作っている人がいるから、何らかの形で助けるというか、一緒にやることができたら。名人の掘り起こしのようなね。全部オープンにして、誰でも入ってこられるような自治会が将来的にできていったらいいなと思っています。